

様式1 (視察用)

## 会派行政視察報告書

令和5年度会派 名和会の行政視察研修を、令和5年5月16日(火)から5月18日(木)までの2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和5年6月15日

名取市議会議長 菊 地 忍 様

会派名 名和会  
代表 吉 田 良



### 記

1 期 日 令和5年5月16日(火)～ 5月18日(木)

2 参加人員 4名 (氏名) 吉 田 良 板橋 美保  
大友 康信 郷内 良治

3 視 察 先 (1) 福岡県那珂川市  
(2) 熊本県八代市  
(3) 熊本県天草市

4 行 程 表 別紙のとおり

5 調査事項 別紙のとおり

6 所 感 別紙のとおり



# 令和5年度 名和会視察研修行程表

| 日程          | 行程                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 視察先及び視察項目                                                                                                      | 宿泊                                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 5/16<br>(火) | <p> <small>ANA3110 便</small><br/>           仙台空港(7:35 発) ===== (9:45 着)福岡空港(10:09 発) =====<br/> <small>福岡地下鉄七隈線</small><br/>           (10:14 着)博多駅(10:22 発) ===== (10:27 着)渡辺通(10:33 発) =====<br/> <small>西鉄バス</small><br/>           (11:16 着) 現人橋 ..... <b>13:00~14:30 那珂川市議会視察</b> ..... 現人橋<br/> <small>徒歩</small><br/> <small>西鉄バス</small><br/>           (14:42 発) ===== (15:24 着) 渡辺通(15:28 発) ===== (15:34 着) 博多<br/> <small>さくら 557 号</small><br/>           駅(16:01 発)===== (16:39 着)熊本駅(17:09 発)===== (17:47 着) 八代駅<br/> <small>徒歩</small><br/>           ..... 八代市内宿泊         </p>   | <p><b>那珂川市議会</b></p> <p>所在地 福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号</p> <p>電話番号 092-953-2211 (直通)</p> <p>調査項目 1 五ヶ山ダム周辺整備について</p>     | <p><b>ホテルルートイン八代</b></p> <p>所在地 熊本県八代市本町1-1-5</p> <p>電話番号 0965-53-0011</p> |
| 5/17<br>(水) | <p>           八代市内宿泊(6:20 発) ..... <b>10:00~11:30 八代市議会視察</b> ..... 八代市役<br/> <small>九州産交バス</small><br/>           所前(12:09 発)===== (12:21 着) 八代駅前(12:35 発)===== (13:01 着)宇土<br/> <small>徒歩</small><br/>           駅 ..... 宇土駅東口(13:08 発)===== (15:09 着) 天草市役所前 ..... 天<br/> <small>バスあまくさ号</small><br/>           草市内宿泊         </p>                                                                                                                                                                                                                                                             | <p><b>八代市議会</b></p> <p>所在地 熊本県八代市松江城町1-25</p> <p>電話番号 0965-32-5984 (直通)</p> <p>調査項目 1 フードバレーやつしろ基本戦略構想について</p> | <p><b>天草 ホテルサンロード</b></p> <p>所在地 熊本県天草市南新町1-5</p> <p>電話番号 0969-24-1100</p> |
| 5/18<br>(木) | <p>           天草市内宿泊(9:40 発) ..... <b>10:00~11:30 天草市議会視察</b> ..... (14:50 着)熊<br/> <small>徒歩</small><br/>           本駅(15:20 発) ===== (16:09 着)博多駅(16:27 発) ===== (16:32 着)福<br/> <small>つばめ 322 号</small><br/>           岡空港駅 ..... 福岡空港 (18:20 発)===== (20:05 着) 羽田空港 .....<br/> <small>徒歩</small><br/>           羽田空港第2ターミナル(20:19 発) ===== (20:44 着)浜松町駅(20:51 発)<br/> <small>東京モノレール</small><br/>           ===== (20:58 着)東京駅(21:36 発) ===== (23:06 着)仙台駅(23:20 発)<br/> <small>京浜東北線</small><br/>           ===== (23:33 着)名取駅<br/> <small>はやぶさ 47 号</small><br/> <small>東北本線</small> </p> | <p><b>天草市議会</b></p> <p>所在地 熊本県天草市東浜町8番1号</p> <p>電話番号 0969-24-8835 (直通)</p> <p>調査項目 1 庁舎建替えについて</p>             |                                                                            |

# 名和会行政視察報告書

視察場所 那珂川市役所3階 委員会室

視察日時 令和5年5月16日（火）午後1時00分から午後2時30分

視察項目 五ヶ山ダム周辺整備について

対応者 議長 高原 隆則 氏  
副議長 江頭 大助 氏  
経済福祉常任委員会 委員長 臂 英治 氏  
経済福祉常任委員会 副委員長 國廣 政則 氏  
地域づくり課長 鶴田 慎也 氏  
地域づくり課 観光・まちづくり担当係長 高木 孝二郎 氏  
地域づくり課 観光・まちづくり担当 福島 祥 氏  
議会事務局 議会担当係長 大熊 拓登 氏

報告者 郷内 良治  
板橋 美保

## 1 那珂川市の概要

明治22年4月30日、町村制の施行により南畑村・岩戸村・安徳村の3村が誕生し、昭和31年4月1日、町村合併促進法に基づき、この3村が合併して那珂川町が誕生し、平成28年には町制60周年を迎えた。

平成27年国勢調査において人口5万人を突破し、平成30年10月1日、福岡県内では21年ぶりの単独市制施行により、現在の那珂川市が誕生した。

那珂川市は、福岡県の西部にあって、大都市福岡市の都心部から13kmのところに位置し、東部は春日市、大野城市、筑紫野市と南部は佐賀県、北・西部は福岡市に接し、南部は三方を脊振連山に囲まれ、ここに源を発する那珂川が市の中央を貫流し、博多湾に注いでいる。

那珂川町発足当時は、8,948人の人口であったが、恵まれた自然環境や福岡市の都心部から至近距離にあることなどから、北部一帯が住宅地として脚光を浴びている。

現在では49,780人である。（令和5年3月31日現在 住基人口 外国人を含む）

平成27年10月1日付で「平成26年全国都道府県市区町村別面積調」結果により、市の面積が変更74.95km<sup>2</sup>（変更前：74.99→変更後：74.95）となっている。

## 2 事業が構想された背景について

五ヶ山クロスとは？

- ①五ヶ山クロスベース
- ②モンベル五ヶ山ベースキャンプ → 各施設の総称＝五ヶ山クロス
- ③リバーパーク H30年3月オープン

コンセプト

アーバンアウトドアの聖地

福岡都市圏から車で約1時間の距離に位置

- 都心から短時間で来訪可能で、手軽に安心して山・河川の自然に触れ合える
- 福岡県と佐賀県の県境に位置し、国道385号で吉野ヶ里町と結ばれている

五ヶ山クロス施設紹介

①五ヶ山クロスベース

「展望デッキ」がある五ヶ山クロスの拠点。

美しい湖畔、自然豊かな山々の眺望を楽しむことができる場所。

サイクリングの休憩場所や、イベント開催場所として活用。

物販店舗としてモンベル福岡五ヶ山店が入居。

飲食店舗にはカフェ「TRAIL（トレイル）」が入居している。

※五ヶ山クロスベースは以下の賞を受賞しています。

「ウッドデザイン賞2019」、「福岡美しいまちづくり建築賞 優秀賞」

「2019年度建築九州賞 JIA特別賞」「2020年度 グッドデザイン賞」

②モンベル五ヶ山ベースキャンプ（ベースから約2km）

株式会社モンベルが運営する60区画のキャンプサイト。

必要な道具一式をその場でレンタル可能。

初心者でも気軽にキャンプを楽しむことができる施設。

（参考データ）

【利用人数】 34,207人（令和3年度）

【売上額】 約8,800万円 ※レンタル・物販収入は除く（令和3年度）

【稼働率】 43.95%（令和3年度）

【利用割合】 福岡県内 91.3% 九州内 7.7% 九州外 1%（令和3年度）

（福岡県内内訳 福岡市 55% 福岡地方 24% それ以外 21%）

※土曜日の利用は年間を通してほぼ満室。

【モンベル五ヶ山ベースキャンプ来場者数】

平成31年度・・・25,165人

令和2年度・・・27,395人

令和3年度・・・34,207人

### 3 事業内容決定までの過程について

モンベルとの官民連携について

平成28年11月中旬 モンベル本社へ電話→五ヶ山ダム周辺整備事業について説明

|            |                                                                                |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 平成29年3月21日 | 包括連携協定締結                                                                       |
| 8月         | キャンプ場の変更設計                                                                     |
| 平成30年4月    | モンベルクラブ フレンドエリア登録                                                              |
| 平成31年2月    | キャンプ場の運営業務委託                                                                   |
| 3月         | テナント（モンベル福岡五ヶ山店）出店                                                             |
| 3月29日      | 五ヶ山クロスオープン                                                                     |
| 4月1日       | キャンプ場の指定管理                                                                     |
|            | モンベル・アウトドア・チャレンジ（M.O.C）による登山や地図読み、サイクリング、クライミング等のアウトドアイベントがスタート<br>（現在も継続して実施） |
| 令和4年4月23日  | M.O.Cによる五ヶ山ダム湖面でのカヤック体験がスタート                                                   |

#### 4 事業実績による効果について

モンベルとの連携による実績・効果

- ・ キャンプ場の累計利用者数・・・合計約8万6千人（平成31年度～令和3年度）
- ・ モンベル福岡五ヶ山店の存在
  - 五ヶ山クロススペースにモンベルの直営店があることにより、アウトドアの拠点として認知されやすい施設となった。
- ・ キャンプ場及びモンベル福岡五ヶ山店におけるアウトドアイベントによる集客
  - アウトドアを熟知しているモンベルが、山歩きや地図読み、クライミング、カヤック等のアクティビティイベントを実施。（プロによるレクチャー）  
上記イベントが五ヶ山クロスが掲げるコンセプト「アーバンアウトドアの聖地」に合致しており、様々なアウトドアアクティビティが楽しめる拠点としての機能が充実してきている。
- ・ PR力の強化
  - モンベルが持っている100万人以上の「モンベルクラブ会員」に対する定期的な会報等による五ヶ山クロスのPRが可能に。  
また、テレビや雑誌等のメディア取材も多く、行政視察も多く受け入れ。

#### 5 今後の課題について

利用者からの声と現在の課題

##### 【利用者からの声】

- ・ アウトドアメーカーならではのイベント（クライミング体験等）ができるため、子どもと楽しみに利用している。
- ・ アウトドアを熟知しているモンベルが運営するキャンプ場のため、キャンプに必要な物販が充実している。
- ・ レンタル品が充実している。特にテントやタープはモンベル製品のため、安心して借りることができる。
- ・ フリーサイト以外の全てのサイトに車を横付けできるため、とても便利で使いやすい。



モンベルが運営することで、アウトドアのノウハウを活用した効果的な管理運営がで

きている。

#### 【現在の課題】

##### ①周遊性の向上

キャンプ場利用前や、利用後に周辺施設に立ち寄ることが少ない状況にある。

来訪者にお金を落としてもらう工夫や近隣施設との連携が必要。

##### ②キャンプサイト等の維持管理

利用者の満足度を高めるには、キャンプサイト（利用区画）をはじめ、

場内の構造物やトイレ等を常にきれいな状態に保たなければならない。

そのため、維持管理をこまやかに実施する必要がある。

##### ③時代に沿ったニーズへの対応、競合の存在

近年のキャンプブームにより、同業施設が多くオープンしている。

そのため、このキャンプ場でしかできない体験を味わってもらう工夫が必要となる。

##### ④アウトドアアクティビティのコンテンツ拡充

モンベルが様々なアウトドアアクティビティイベントを実施しているが、土日等の休日の開催がメイン。

平日頃から来訪者が楽しめるコンテンツの拡充が必要。

→ 令和5年度、6年度で「水源地域振興計画策定業務」を実施。

本計画でこれらの課題を踏まえた振興策を検討していく。

#### 五ヶ山クロス周辺施設について

中ノ島公園

五ヶ山クロスベース

モンベル五ヶ山ベースキャンプ

道の駅吉野ヶ里（佐賀県吉野ヶ里町）

山茶花の湯（佐賀県吉野ヶ里町）

アドベンチャーバレーSAGA（佐賀県吉野ヶ里町）

#### 今後の展望

吉野ヶ里町・周辺事業者との連携による観光人口の流入と循環

→ アドベンチャーバレーSAGAや山茶花の湯、道の駅など施設利用者の流入、五ヶ山クロスと吉野ヶ里町各施設及び周辺事業者との観光人口の循環

広域連携によるエリアの魅力化

→ 脊振山系等を中心に位置している那珂川市、福岡市早良区、福岡市こども未来局（脊振少年自然の家）、佐賀県吉野ヶ里町の4者で、エリアの活性化を図る。

#### 五ヶ山ダムの湖面活用

→ カヤック体験等、五ヶ山ダム湖面を活用したイベントを実施

自然環境の活用

→ 自然環境を活用したイベントの開催による集客

国道385号のバイパス化

→ 年々交通量が増加している那珂川中山間～吉野ヶ里間の道路の新設（バイパス化）が計画されている。

#### 吉野ヶ里町との連携

佐賀県吉野ヶ里町是那珂川市と隣接しており、五ヶ山クロスは佐賀方面からの入口となる。

→ 平成31年度に観光振興に関する連携協定を締結。

→ 令和2年3月に「まるっと那珂川・吉野ヶ里」作成

→ 令和4年10月～12月にスイーツスタンプラリーを実施。

また、互いのイベントに出展を行い、互いのエリア発信を行っている。

今後とも連携強化により、情報発信力の強化や更なる魅力向上が期待できる。

令和3年3月にグランドオープンした「アドベンチャーバレーSAGA」は自然を楽しむアクティビティと言う点で五ヶ山クロスと似たコンセプトとなっている。

那珂川と吉野ヶ里の食や体験、魅力が詰まった雑誌を作成（業務委託）

スイーツスタンプラリーのチラシ 両市町の多くの店舗に協力を仰ぎ実施することができた。

#### 広域連携

那珂川市と福岡市早良区、佐賀県吉野ヶ里町は脊振山系等の豊かな自然環境をお互いが有しているとともに、隣接をしている。

地域活性化に向けた相互情報発信やお互いの資源（自然環境や観光施設等）を有効活用することで、エリアの活性化を図ることを目指す。

→ 令和4年3月に地域活性化に向けた連携と協力に関する協定を締結。

→ 令和4年度にはクリスマスマルシェや、星空観察会等を企画・実施。

また、イベントの相互出展も実施した。

連携強化により、情報発信力の強化や更なる魅力向上が期待できる。

#### 五ヶ山ダム湖面活用

令和4年4月から、株式会社モンベルグループによるカヤック体験イベントがスタート。

モンベル福岡五ヶ山店（五ヶ山クロスベース）で受付。

4月～10月まで不定期で開催している。

#### 自然環境の活用（五ヶ山・脊振クロストレイル大会について）

五ヶ山周辺の自然環境を活用した、五ヶ山・脊振クロストレイル大会を実施。第3回目を令和5年3月12日に開催し、毎年開催のイベントとして定着させることを検討している。

##### 【大会詳細】

主催：那珂川市

共催：九州トレイルランニング協会（TRAQ）

後援：福岡市 佐賀県吉野ヶ里町

協力：脊振少年自然の家 スカイトレイル

協賛：ユニバーサルフィールド 那珂川清滝 南畑みらい協議会 山茶花の湯 など

##### 【レース詳細】

距離           ：シングル 約32km     ダブル 約64km

累積標高     ：シングル 約2,200m   ダブル 約4,400m

制限時間     ：8時間

エントリー数：293名

スタート数   ：242名

大会当日は大きなトラブル等も発生せず、スムーズな大会運営を行うことができた。

## 6 質疑応答

問 五ヶ山での周辺整備事業が公表された背景は。

答 昭和53年の大洪水を受けて、異常洪水から市民を守る抜本的な対策として、五ヶ山ダムの

建設計画に福岡県が着手した。この五ヶ山ダム建設に伴い、水源地域特別措置法に基づき平成16年度に水源地域整備計画が決定された。この計画により、ダム周辺に公園を作ること当初計画にしていたが、平成24年に民間人で構成する外部委員会を立ち上げ、改めて計画の検討を重ね、平成25年5月に五ヶ山クロスの整備の基となる五ヶ山ダム水源地域公園整備基本計画が作成され、平成31年3月に五ヶ山クロスがオープンした。構想された背景には、ダムを観光や地域振興の資源と捉えて活用すること、将来的な維持管理費等も考慮しながら、持続可能な施設として整備することに課題があった。

**問** 事業における調査検討は、どの程度行われたのか。

**答** 調査検討は、平成24年度からスタートし、外部委員会で先行事例示唆、先行事例の視察など、基本計画案の検討が平成25年5月まで行われた。その後、五ヶ山の水源地域公園等整備基本計画が決定された。五ヶ山クロススペースは、平成27年度に検討業務委託を行い、改めて調査を行った後、平成28年度・29年度の公園の実施計画に着手した。モンベル五ヶ山ベースキャンプは、整備基本計画決定後、モンベルとの協議を平成28年度から開始し、モンベルの現地視察やその後の協議を経て、平成29年に包括連携協定を締結、その後に変更設計をした。

**問** 事業内容決定までの過程は。

**答** 事業の具体的な内容は、外部委員会を立ち上げて検討した。議会でも別途検討され、提言書が設置されている。外部委員会では、計画案の作成当初から案を示しながら、意見聴取を行い、修正案に反映させていた。五ヶ山クロススペースは、飲食物販店など商業施設を作るにあたり、知見のあるコンサルタントに調査検討の客を行い現在の形となり、キャンプ場は、オートキャンプ場や島広場等を整備予定で、実施設計まで完了しており、モンベルとの包括連携後に変更設計が加えられ現在の形となった。

**問** 事業を実施するための必要な予算は。

**答** 五ヶ山クロス全体の工事費は、五ヶ山クロススペースが約5億2600万円。モンベル五ヶ山ベースキャンプが6億7800万円。ダム周辺の水源地域の振興対策を推進することを目的とし、水源地域と住居地域に関係地方公共団体などを構成員とする水源地対策基金が設立されており、地域振興対策に必要な措置に対する資金援助を受け、その他の事業は、国の補助金なども活用している。

**問** 事業実施による効果は。

**答** 五ヶ山クロスが整備されたことによって、来訪者が足を止めて五ヶ山の自然や景観を楽しむことができるようになった。また、サイクリングや登山、ランニングなど五ヶ山クロスに立ち寄り方が多く、整備基本計画のコンセプトになっている健康作りやレクリエーションでの活用、観光資源の魅力を引き出すことに寄与していると感じる。

**問** この事業を地域住民がどのように活用されたのか、事業を実施することで期待される効果は。

**答** 五ヶ山ダム周辺整備計画の方針として、五ヶ山ダム周辺の自然や景観、ダム湖を活用した新たな水辺レクリエーション、拠点のスポット、広場の整備があり、この方針を基に自然を楽しみながらキャンプができるモンベル五ヶ山ベースキャンプ、山やダム公園の景観を楽しむことができ、五ヶ山ダムの湖面でカヤックなどのレクリエーションが体験できる五ヶ山クロススペースが作られている。非日常を体験できるエリアとなっている。キャンプや体験が福岡市から車を1時間程度走らせればできるという手軽さから、アウトドア好きの方々から認知されてきており、事業を継続して実施することで今後も来訪者を増加させ、水源地域の振興を図る。今後、五ヶ山ダム周辺の水源地域は稼ぐ力やブランディングの向上を

図っていき、稼ぐ地域へと成長させ、賑わいと活力を生み出し、民間同士の喚起や所得雇用の増加に繋げていきたい。

問 外部委員会のメンバー構成は。

答 大学教授か2名、関係4団体から各1名、五ヶ山地区の住民3名、公募で募った那珂川市の3名の計12名。

問 どのくらい話し合いがなされ、内容は。

答 合計14回程委員会を開催している。内容は、整備計画の概要の説明、基本計画案の検討を行っている。平成24年5月から平成28年3月頃まで開催しており、長期間に渡り、色々な面で検討を行っている。

問 委員会の中で検討された内容について、議会や執行部への説明は。

答 議会への説明は、節目節目に報告していた。役所内部にも検討会議を設置し、外部委員会に備えるという繰り返しで、役所内部の合意形成なり確認を行いながら検討した。

問 包括連携協定は、いろいろな分野で活用されているのか。

答 モンベルとは包括協定を締結しており、他の事業者とも包括的な協定を結んでいる。

問 モンベルとの包括連携協定を決定するまでに議論されたのか。

答 アプローチした時、既にモンベルは全国的に他の自治体で包括連携協定を締結している事例があり、自治体と魅力あるモンベルとの連携を通した自然環境の活用も先進的な事例があったので、そこも含めて話をしていた。

問 指定管理で運営していると思うが、計画通りに運営されているのか。

答 今回指定管理としてモンベルにお願いし、指定管理料1000万円ちょっと年間で支払いをしており、年間の収支は指定管理を含めたところで採算を止めていく。当初の計画、こちらが想定していた売上、利用人数、稼働率は全て超えている状況で推移している。

問 ポイ捨てしたりというゴミの問題対策は。

答 キャンプ場は、指定管理施設で指定管理者がいるので、ゴミは利用者が持ち帰りではなくキャンプ場に捨てて帰れるようになっており、キャンプ場にまとめたゴミは定期的に回収するので、特にゴミの問題はないが、たまに不法投棄等があり臨時的に回収したりしている。その他五ヶ山クロススペースやリバーパークという施設もある。五ヶ山クロスは広いのでしょっちゅう見回るのが難しいが、別途清掃業務を業務委託しており、毎週毎日ではないが週6回清掃をしていただいております、ゴミの回収も行っている。

問 キャンプ場等を利用するのではなく、たまたま見学に来てポイ捨てして行くようなことはないのか。

答 キャンプ場に関しては、スタッフの目があるのでそういったことはないかと思う。ただ五ヶ山ダム直下のリバーパークは、夏場は特に河川沿いということもあり火気厳禁にはしているがバーベキュー等の利用があり、ゴミをそのまま置いて帰られる方が見受けられるので、職員も臨時的に見回りをしている。

問 キャンプ場を那珂川市の学校の児童、生徒が、野外活動の場として活用されているのか。

答 今のところ学校教育の中で、このキャンプ場を利用しているところはない。他市の青少年の学校教育ではないが、青少年の教育一貫の団体に利用いただいたことはある。

問 今後教育の場で活用する考えはあるのか。

答 今後については、水源地域振興計画の中で位置付けを検討していきたい。五ヶ山クロスのあり方を検討するようという意見をいただいているので、そういう計画の中で検討は行っていきたいと考えている。

## 7 所感

五ヶ山ダムは、福岡県那珂川市と佐賀県吉野ヶ里町にまたがる場所に位置し、水害や渇水に対応するために福岡県内最大の総貯水容量を有する多目的ダムとして計画された。

インフラ整備事業として計画が進むなか、福岡県・佐賀県・那珂川市・吉野ヶ里町の間で、五ヶ山ダムを観光拠点へとの機運が高まり、協議を重ね、キャンプ場や公園などを整備した新たな賑わいの場、五ヶ山クロスが計画された。

五ヶ山クロスの実現に向け、那珂川市からアウトドア総合メーカー(株)モンベルに協力を呼びかけ、包括連携協定を締結した。五ヶ山クロスオープン後、洗練されたキャンプサイトのデザインや川遊びなどのアクティビティが評価され、週末はほぼ予約でいっぱい、平日でも見学者が絶えないという。

五ヶ山ダムは、外から人を呼び込める観光資源として、那珂川市の川遊びスポットとして知られる中之島公園など周辺地域にも還元され、五ヶ山クロスによる相乗効果といえよう。

那珂川市と吉野ヶ里町は、観光振興を目的とした連携協定書に調印後、五ヶ山ダムを中心に両市町を周遊する観光ルートの整備や観光パンフレットの作成、イベントの充実などを図っている。吉野ヶ里町には道の駅吉野ヶ里などがあり、五ヶ山ダムとのアクセスも良く、那珂川市との連携による交流人口の増加は十分見込める。

インフラ整備事業は、それ単体でも地域への経済波及効果があるが、五ヶ山ダム・五ヶ山クロスは、福岡県・佐賀県・那珂川市・吉野ヶ里町の広域連携や、産学連携も視野に入れた取り組みによって、人・物・金が循環する観光資源としての役割も果たしている。

五ヶ山ダム整備事業は、先進的で優れた取り組みが多く見られた。今後も持続可能な地域づくりに向けた取り組みに期待したい。本市においても、樽水ダムや川内沢ダムがあり、今後のダム湖周辺整備の参考にすべき点が多くあった。



# 名和会行政視察報告書

視察場所 八代市役所

視察日時 令和5年5月17日（水） 10:00～11:30

視察項目 フードバレーやつしろ基本戦略構想について

|     |            |    |         |
|-----|------------|----|---------|
| 対応者 | フードバレー推進課  | 課長 | 泉 宜孝 氏  |
|     | マーケティング戦略係 | 係長 | 下山 正和 氏 |
|     | 議会事務局      | 局長 | 宮川 武晴 氏 |
|     | 議事調査係      | 書記 | 村上 政資 氏 |

報告者 吉田 良

## 1 八代市の概要

八代市は熊本県都・熊本市の南約40kmに位置し、市域は東西約50km、南北約30kmで、約681平方kmの面積を有する。市域の約73%が山間地、約27%が平野部からなり、日本三急流の一つである球磨川の河口に位置する八代平野は、扇状地と三角州を基部とする沖積平野と、藩政時代から行われてきた干拓事業により形成された平野である。多様で豊かな自然に恵まれ、良質な水の恩恵を受け、全国有数の農業生産地、県内有数の工業都市として発展してきた。

交通アクセス面では、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道が走り、九州新幹線新八代駅が立地するほか、海の玄関口である八代港は、水深－14m岸壁を有する県内最大の国際貿易港であり、物流拠点としての機能も充実している。令和2年3月、クルーズ旅客ターミナルを含む国際クルーズ拠点「くまモンポート八代」が完成し、令和3年7月には国土交通省が認定する「みなとオアシス」に登録され、物流のみならず人流拠点や地域振興としての機能を併せ持つハイブリッドな港湾となった。

八代市の総人口は、平成18年8月1日に1市2町3村が合併した際の13万6千人台をピークに減少傾向にあり、平成27年の国勢調査で13万人を割り、最新の令和5年は住民基本台帳人口で約12万2千人となっている。平成27年に発表された人口ビジョンによると、2040年に10万人を割り込み、2060年には6万7,600人と、現在の半分にまで減少することが予測されている。

平成28年熊本地震では本庁舎が被災し、仮設庁舎や各支所に分散して業務を行うことを余儀なくされたが、令和4年2月14日、市役所新庁舎が完成した。また、令和2年7月に発生した豪雨災害では、球磨川流域における線状降水帯の影響により、坂本町に甚大な被害をもたらした。

「日本一の信号機」と称するトマト（赤）、晩白柚（黄）、いぐさ（青）の生産量は日本一を誇るほか、紙、パルプ、日本酒などの製造も盛んである。毎年11月に行われる八代神社

の「妙見祭」は、長崎くんち、博多祇園山笠とともに九州三大祭に数えられる伝統の祭りである。また、10月に行われる「やつしろ全国花火競技大会」は、西日本で唯一開催される花火競技大会で、日本全国から30ほどの花火業者が参加し、毎年10万人以上の観光客を集めている。

## 2 基本戦略構想策定に至る背景

人口減少や少子高齢化などにより、産業をとりまく環境が厳しさを増している中、熊本県南地域には豊富な農林水産物があるとともに、高速交通網、物流拠点としての八代港（重点港湾）があり、食に関するポテンシャルを生かした県南地域の活性化が最重要課題と位置づけられた。

県南地域の豊富な農産物などを生かした産業の振興と地域の活性化を目指すため、熊本県は平成25年3月「くまもと県南フードバレー構想」を策定した。それにともない、同年7月、県南15市町村を対象とする「くまもと県南フードバレー推進協議会」が設立された。

### くまもと県南フードバレー推進協議会の事業

○県知事及び県南15市町村長で構成

○令和4年度の予算規模は9,400万円

○ネットワークの形成

- ・売れるモノづくり支援：商品開発の事業補助、技術支援、専門アドバイザー支援
- ・強靱な販路づくり支援：商談会への出店支援、通販事業の促進、フェア開催等
- ・異業種交流：異業種間の情報交換会や商談会の実施

○人材育成

- ・経営者等を対象とした経営塾の開催、大規模講演会の開催、個別セミナーの開催
- ・市町村活動の支援

○情報の共有・発信

- ・県南商品情報の管理、キャンペーンの実施、メディアやウェブを利用した情報発信

八代市においても、豊富な農林水産物を中心とした食に関連する幅広い取組の展開により世界に通じる「やつしろブランド」を構築し、食関連産業の競争力向上や新たな産業の育成と雇用の創出を図るため、平成26年3月、市が取り組むべき方向性を示した「フードバレーやつしろ基本戦略構想」を策定した。

### 市独自の視点

○八代港を生かした輸出事業への取組

- ・人口減少による国内マーケットの縮小が見込まれる
- ・今のうちから国外にも販路を広げることが必要

○八代特産のいぐさや林業資源の活用も含め、農林水産物全体の活性化を図る

### 3 フードバレーやつしろの具体的な取組

フードバレーとは、食関連産業が集積している地域の俗称で、アメリカ・カリフォルニア州の半導体コンピューター産業の集積地「シリコンバレー」に由来する。オランダが発祥の地とされる。日本では、八代市以外にも静岡県富士宮市、北海道十勝地方、熊本県南地域などで取り組まれている。

八代市は、世界に通じる「やつしろブランド」の構築、食関連産業の競争力向上、新たな産業の育成、雇用の創出、そして健康で豊かな市民生活が育まれるまちを将来像として描き、八代の農林水産物の高付加価値化と、関連産業の集積により「食」に関するあらゆる産業が活性化した「フードバレーやつしろ」を目指すことを基本目標とする。

基本方針を達成するため、①フードバレーやつしろの地域ブランドづくり、②八代の個性と魅力を発揮できる食の拠点づくり、③八代がアジア、全国とつながっていることが実感できる販路づくり、④フードバレーやつしろを実践する体制づくり、の4項目を基本方針として掲げる。

全庁的な取組を展開するために、市長を本部長とする「八代市フードバレー推進本部」を設置し、フードバレー推進課が事務局を担い、以下3本柱の事業を実施する。

#### ◆国内流通マッチング・販路開拓（流通企画係3名＋アドバイザー1名）

- ・食材のマッチング（B to B）八代産の農水産物を市外の企業に材料として提供
- ・商品のマッチング（B to B to C）八代産の食品を大都市圏のお店等の商品として提供

#### ◆八代産農林水産物等の輸出促進（輸出促進係2名＋アドバイザー1名）

- ・市内事業者に輸出に興味を持っていただくためのセミナー等の開催
- ・台湾、香港をはじめとするアジア圏への農産物等の輸出促進
- ・海外バイヤーへの商品提案

#### ◆6次産業化・農商工連携の推進（マーケティング戦略係2名＋アドバイザー1名）

- ・商品開発、経営戦略の支援
- ・大都市圏等での販路拡大の支援

各分野の専門家をアドバイザーとして委託し、それぞれの係と連携を図るほか、熊本県庁に市職員を派遣している。

### 4 事業実施による効果

豊富な農林水産物を中心とした「食」に関連する幅広い取組の展開により、世界に通じる「やつしろブランド」の構築がなされ、食関連産業の競争力向上や新たな産業の育成と雇用の促進が、効果として期待される。

構想実施後、熊本県が県南フードバレーの拠点施設として「フードバレーアグリビジネスセンター」を設置した。また、県南フードバレー推進協議会の市内事業者会員数は、平成25年の約100者から、令和3年には約270者にまで拡大した。

こうしたことから、フードバレー事業の取組が徐々に浸透していると評価できる。

## フードバレーアグリビジネスセンター

- 平成27年5月、八代市鏡町にオープン
- ビジネスサポート、分析・鮮度保持試験、1次加工支援などを行う
- 加工試作室など無料で活用できる設備もある

## フードバレー推進課における最近の主な事業実績

|          | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   |
|----------|---------|---------|---------|
| 国内・新規成約額 | 1,100万円 | 1,150万円 | 1,390万円 |
| 海外・輸出品目数 | 6品目     | 8品目     | 10品目    |
| 6次化・新商品数 | 7商品     | 8商品     | 11商品    |

食育との関連として、構成メンバーに市健康推進課も含めており、食生活改善推進事業の一つとして、食育教室を行っている（令和4年度は19回開催、のべ800人程度が参加）。

また、本来廃棄される規格外品などを利用した商品開発を行うなど、自然環境への配慮にも努めている。

## 5 課題

### ◆国内流通マッチング・販路開拓

- ・オンライン環境を活用した取組など、社会情勢の変化に対応する新たな販路の開拓や商談機会の創出に取り組んでいく必要がある

### ◆八代産農林水産物等の輸出促進

- ・販路拡大のための拠点（商流拠点）づくりに取り組んでおり、今後、市内事業者・関係団体等と連携した販路拡大・開拓の体制をさらに強化し、市の農林水産物等の輸出促進につなげていく必要がある

### ◆6次産業化・農商工連携の推進

- ・海外への販路拡大に取り組む業種者が固定化しているため、業者育成やプロモーションの展開が必要である
- ・新商品開発では、新規事業者の掘り起こしが必要であるため、セミナーの開催や事業者訪問による聞き取り等を積極的に行う必要がある

### ◆成約後のフォロー

- ・成約状況として、スポット的なものが多い

## 6 質疑応答

問 商品開発を進める中で、生産者との連携はどのように行われているのか。

答 農林水産政策課や農業振興課など、生産者と直接つながる部署がある。協力したいという場合、そちらを通して推進課とつなぐことになる。また、新商品開発に意欲のある事業者に対する案内を広報やつしろに掲載している。

問 どのような商品であっても、ある程度の量がなければ、持続的に供給することはできないが、量の確保についても情報が共有されているのか。

答 生産者の現状に応じて臨機応変に取り組んでいる。

問 高校や大学、農業学校などの生徒も良いアイデアを持っている。それらの機関との連携にも力を入れているのか。

答 八代農業高校では食品加工も行われている。先日もジャムが開発されたと報告があった。定期的に何が出来るのか話し合いを進めている。

問 新商品と既存商品とでは、どちらに力を入れているのか。

答 事業者がそれぞれ判断している。イベント用の商品として生産されるものもある。

問 八代港からの輸出について、相手先の国、商品の種類と量は。

答 生鮮食品は香港やシンガポールに向けて輸出されている。晩白柚は香港の旧正月の頃が最盛期である。香港で店舗を展開しているイオンと連携し、輸出につなげている。加工品でなければ輸出できないケースが多い。現状では晩白柚が一番の目玉となっている。晩白柚は、冬場であればドライコンテナを使い1週間程度の輸送時間がかかっても問題ない。

問 海外へ売り込むために、ほかにどのような手法を用いているのか。

答 1月には香港フェアを行っている。また台湾の基隆（キールン）と八代市との間で友好交流協定を締結して今年で5年の節目を迎えることから、台湾でフェアを開催し、売込みを行うとともに、現地のバイヤーや加工業者との商談会も行う予定である。

問 畳表の需要が減少する中、いぐさを民芸品の材料として利用することはできないのか。

答 民芸品はどちらかというと少量で、畳表のような大量生産品とはなりにくい。やはり畳を全国に売り出したいと考えている。フローリングに置けるゴザや畳マットを売り込むと同時に、建築士に対して畳の良さをPRしていきたい。畳の中にスピーカーを内蔵させ、寝転んで音楽を聴けるアイデア商品も製造・販売されている。

問 くまもと県南フードバレー推進協議会の事業費の負担割合と用途は。

答 県が約7千万円、市町村が約1千万円を負担している。ネットワーク形成や人材育成、情報発信、アドバイザーへの委託などに使われている。

問 事業により開発や販売された商品の売上は、事業者配分される仕組みか。

答 売上は全て事業者の収入となる。

問 熊本県が設置したフードバレーアグリビジネスセンターの詳細は。

答 6次化を進める拠点である。生産しか行っていない事業者が6次産業に成長するため、

パッケージやラベルの作成、賞味期限の設定など試作の面での支援を行っている。県のフードバレー構想が策定されてから新たに設置された。

問 アドバイザーはどのような人か。

答 国内流通マッチング・販路開拓は酒造メーカーの従業員、八代産農林水産物等の輸出促進は海外販路拡大の実績のある方、6次産業化・農商工連携の推進は大手スーパーの事業部長に現在は委託している。

問 相談の窓口はどうなっているのか。

答 新商品開発については、まず市報に掲載する。また、推進課職員が市内事業者を一件ずつ回って名刺を渡し、何かあれば相談してくださいと言ってつながり作りに努めている。推進課が相談の窓口となり、必要に応じてアドバイザーにつないでいる。相談は無料で受けることができる。

問 職員が県外や海外にも出向いてPRしているのか。

答 今年6月には大阪のスーパーに売込みに行く予定である。県外へ売り出すためにはコストもかかるため、それらの情報を職員から生産者に伝える流れとなっている。

問 JAなどの組合や商工会、商工会議所、観光物産協会などとの連携は。

答 それぞれの団体に事業者が会員として所属しているので、情報を周知する場合など団体に協力を求めることもある。相談したい事業者が現れた場合、団体から市へつなぐ仕組みとなっている。

## 7 所感

くまもと県南フードバレー推進協議会が発行する「やつしろのおいしいを味わいつくす。」という冊子は、農林水産業、食品・飲料製造業、飲食業などが提供する商品の魅力を色とりどりに紹介し、八代の産業の多様性や豊かさ、地域活性化を目指す事業者の意欲が伝わってくる内容である。一次産業の担い手不足は全国的に問題となっている中で、加工や流通・販売まで一体的に取り組み、新たな付加価値を生み出している成功例として、事業の詳しい内容や取組の経緯などを調査したいと考えた次第である。

八代市の産業別就業人口を見ると、令和2年度国勢調査では、総就業者に占める一次産業就業者の割合は13.6%である。平成17年度の14.5%、22年度及び27年度の13.9%と、たしかに減少傾向にある。本市を見ると、平成17年度は6.3%、22年度は4.5%、27年度は3.4%、令和2年度は3%である。また、第一次産業従事者一人当たりの年間生産額で見ると、名取市が149万8千円であるのに対し八代市は220万円と、かなりの差が生じている（令和元年度の生産額を令和2年度の就業者数で除した）。産業の魅力が収入だけに左右されるものでないことは当然だが、一次産業を持続可能なものにするためには、収入の向上が主要課題の一つであることは間違いない。その手段の一つとして6次化があり、八代市の取組の中で本市が取り入れるのにさほどの障壁がない内容は、次の2点であると考ええる。

その1点目は、アウトリーチ型の官民連携である。八代市のフードバレー推進課は新商品開発を推進するため、ローラー作戦のように市内事業者への個別訪問を自主的に行っている。市役所職員が訪れることに戸惑う事業者もあるとのことだが、この積極性と熱意が魅力的な新商品の開発につながり、第一次産業従事者の収入増をもたらせば、結果として税収の増加となる。インターネットが発達した現在、足を使った対面での関係づくりは古い手法のように見られるかもしれないが、強い関係が結ばれることは論を待たないのではないか。本市としても、待つ対応から出る対応への進化が求められる。

2点目は、海外販路の開拓である。本市には仙台空港が立地し、運用の24時間化も決定した。コロナ禍による流通の停滞が改善に向かっているものの、アフターコロナの戦略は見えてこない。航空機による輸送は船舶による輸送よりも時間的に有利であるはずであり、その環境が十分に生かされていない現状は惜しまれる。国際線で結ばれる相手先地域のニーズや販売拠点となり得る施設を調査し、現地の人々に好まれる商品の開発やバイヤーとの関係を構築するなど、世界に目を向けた産業振興の戦略を立てることが課題である。

フードバレーやつしろが最も重視する輸出促進は、人口減少という問題を正面から見つめ、避けられない課題として受け入れた結果、導かれた現実的な解である。高度経済成長とバブル経済の成功体験を引きずらず、経済・社会における価値観を量から質へと転換することが、人口減少や少子高齢化という未曾有の危機においても社会の豊かさを維持するために必要と考える。市当局の意識の転換につなげていきたい。



八代市議会議場



晩白柚の実物大模型と新商品「ぱふこ」

# 名和会行政視察報告書

報告者 大友 康信

**視察場所** 天草市役所

**視察日時** 令和5年5月18日(木) 10:00~11:30

**視察項目** 天草市役所「庁舎建替えについて」

**対応者** 牛深支所総務振興課課長補佐 宮内 祐貴 氏  
総務部財産経営課 管財係長 竹内 友教 氏  
議会事務局 局長補佐 大石 道史 氏

## 1 天草市の概要

天草市は、熊本県の南西部にある、周囲を美しい海に囲まれた天草上島と天草下島および御所浦島などで構成する天草諸島の中心部に位置している。本渡市・牛深市・有明町・御所浦町・倉岳町・栖本町・新和町・五和町・天草町・河浦町の2市8町が合併し、平成18年3月27日に誕生した天草市の面積は、683.82平方キロメートル（令和2年10月1日現在）で熊本県内最大である。地形は市域のほとんどが山林で占められ、急峻で平野部は少なく、河川沿いの平地部や海岸線の河口部に市街地や農地が展開し、市街地を結ぶように海岸線沿いに国・県道などが配置・整備されている。令和2年の国勢調査による総人口は75,783人、世帯数は31,873世帯で平成27年と比較すると減少しており、また、1世帯当たりの人員も2.38人と減少している。

熊本地方の平均気温は16.5℃で、最高気温は36.0℃、最低気温は-3.4℃。暖流の影響で、冬は暖かく、夏は比較的涼しい海洋性の気候で、10年間の平均降水量は2,191.0mmで、6・7月の梅雨期に年間の約3分の1の降水が集中し、7月から9月にかけては台風が接近しやすい時期とも重なり、たびたび風雨による被害が発生している。

産業は、温暖な気候を活かした農業や、豊かな水産資源を活かした漁業を主として発展してきた。また、自然景観、南蛮文化やキリシタンの歴史など、多くの観光資源にも恵まれている。

県庁所在地の熊本市からは車で2時間、天草エアラインでは天草空港まで20分、福岡空港からは35分。産業の発展や地域間交流など、福岡・長崎・熊本・鹿児島を結ぶ九州西岸地域の拠点としてあらゆる分野において発展が期待されている地域である。

## 2 天草市役所新庁舎建設の背景と経緯

平成 18 年 3 月、2 市 8 町の合併により天草市が発足した。市の拠点となる本庁舎は施設・設備の老朽化が進んでおり、事務室も狭く、エレベーターなどバリアフリー化の対応も遅れ、庁舎機能の一部を旧熊本県職業訓練校に配置していたが、耐震基準を満たしていないこと、市民の利便性も低下していたことから合併協定に 10 年以内に新庁舎建設を検討すること明記されていた。

平成 23 年 3 月に「天草市本庁舎建設基本構想」、平成 25 年には「本庁舎建設基本計画」策定し、「くまもとアートポリス事業」による設計者の特定および設計業務委託契約の締結まで進められていた。しかし、平成 26 年に新たに就任した中村市長の選挙公約により「くまもとアートポリス事業」は中止となり、設計業務委託契約は解除された。

必要最小限の規模で十分な機能を発揮できる本庁舎の建設するため「本庁舎建設基本計画」は修正され、総事業費は 68 億円から 48 億円（本体工事費 40 億円）に見直された。

平成 27 年 7 月に公募型プロポーザルにより設計者を特定し、8 月に建設設計業務建築一式工事、電気設備工事、機械設備工事 委託契約締結、28 年 3 月に基本設計が完了した。4 月 14 日と 16 日に震度 7 が観測された熊本地震が発生。天草市では、震度 6 を観測し、本庁舎と旧本館も被災したため、本庁機能を 11 力所に分散して 4 月より業務を開始した。平成 29 年 2 月被災した本庁舎及び旧本館の解体工事に着手。実施設計も完了したことから、6 月に条件付き一般競争入札により新庁舎建設工事を、建築一式工事、電気設備工事、機械設備工事 の 3 つに分割発注して落札者を決定した。7 月に旧庁舎解体工事完了後、建設工事に着手、安全祈願祭を開催した。

平成 31 年 4 月建設工事(建築、電気、機械)竣工、5 月外構工事竣工により新庁舎落成式を開催、6 月に開庁した。

## 3、新庁舎について

### ○ 工事概要

工事名称：天草 4 本庁舎建設工事、

発注者名：天草市

設計者：日建設計（株）

施工者：建築一式工事：安藤ハザマ・吉永・中村 特定建設工事共同企業体

電気設備工事：西邦・鋤田 特定建設工事共同企業体

機械設備工事：九電工・天草設備 特定建設工事共同企業体

工事期間：平成 29 年 6 月 23 日から平成 31 年 4 月 26 日(約 23 カ月間)

#### 工事費用

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 建築一式工事 | 29 億 1452 万 9775 円 |
| 電気設備工事 | 5 億 2075 万 7435 円  |
| 機械設備工事 | 9 億 926 万 721 円    |
| 合 計    | 43 億 4454 万 7931 円 |



#### ○ 建物概要

敷地面積：11194.38 m<sup>2</sup>

設計地盤面：TP +2.5m(TP は東京湾平均海面を基準とする標高の基準面)、

1 階床高さ：TP 4m(高潮時の最大潮位 3.881 メートル、津波による浸水なし)

建築面積：3741.26 m<sup>2</sup>

延床面積：9992.19 m<sup>2</sup>

構造：地上 3 階(塔屋 1 階)、鉄筋コンクリート造、1 部木造 基礎免震構造

駐車場台数 193 大

昇降機：13 人乗り 1 台、17 人乗り 1 台

空調機器：中央監視式ガス吸収冷温水機 2 基(都市ガス使用)

外気処理空調機 2 基、個別空調 5 室

#### ○ 新庁舎のコンセプト

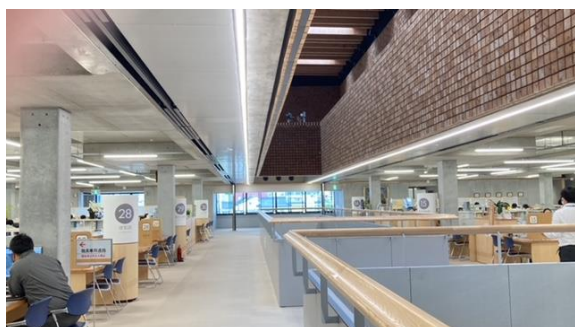
##### ① 天草らしい「やさしい庁舎」

・市民利用の多い課は 1 階に集約し「アマクサン広場」に、すべてのカウンターが面する配置とした。



**1 階のアマクサン広場**

・3 階建ての低層・大平面の建物なので、上下の移動が少ないバリアフリーで、将来の変化にも柔軟に対応が可能。



**2 階執務スペース 必要最小限の階高**

- ・天草ならではの材料を多く使用。地元の杉・檜による家具や木屋根、旧庁舎で使用されていた天草木目石を再利用した床材、天草陶石を使った陶器サインなど。

## ②災害に強い「合理的な庁舎」

- ・東日本大震災や熊本地震の教訓を生かして、天井落下のリスクをなくするため、主要なスペースはできるだけ天井を張らない計画とした。

- ・化粧仕上げは省略し頭上には躯体と最小限の設備が見えるのみ。

- ・通常は天井内にある空調機やダクトは、すべて床下空間や壁に収めている。

## ③合理性を追求した「経済的な庁舎」

- ・素地や RC 打ち放しをそのままの姿を見せるデザインが華美な仕上げを省略し、化粧・補修も最小限にした。天井を張らない必要最小限の階高と床下空間を活用したダクトの少ない空調。

- ・採光や通風など、自然エネルギーを活用してランニングコストを軽減。

## ○新庁舎の特徴について

- ・部署の配置については、できるだけ利用者の上下移動がないように、1 階には窓口関係部署を配置し、2 階には専門部署(総務、建設、経済、教育など)、3 階には機械、選管、情報等を配置している。

- ・新庁舎には天草初の基礎免震構造を採用している。

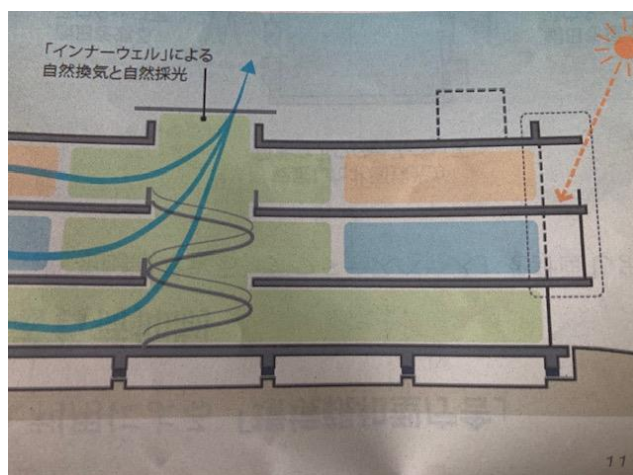
- ・一部屋根を木造とし躯体を軽量化することで、耐震壁を建物の周囲に配置することが可能となり、1 階及び 2 階の執務スペース内に壁を設置しないオープンスペースを実現している。設備スペースやコアを建物の外周に配置。見通しの良い大きな平面のフロアは、将来の変化にも柔軟な対応が可能である。

- ・外周には水平力を負担する耐震壁を配置して硬さを確保し、内部の柱は自重のみを支える構造システムにより、建物内部の柱サイズをミニマム化でき、自由度を高めている。

- ・外壁や内部の壁及び天井はコンクリート打ちっぱなしによる仕上げとなっており、打ちっぱなしによる型枠やピーコン跡などをあえて意匠的なものとして表している。また、過度な仕上げをしないことで、建設費の抑制をしている。

- ・屋根や机上、建具窓口、カウンターなどの家具には、地元産木材(杉ヒノキなど)を使用し、地元業者による加工を行った。設計時から、地元木材業者と打ち合わせを行い、工事の後期に確保できる材料を選定して設計を行っていた。議場の机は旧庁舎にあったもので、使用できる材料を再利用する目的により旧庁舎で使用していた机をリメイクして再利用している。リメイクの際は、地元産材のヒノキを使用している。

- ・1階中央通路のコンクリート平板は、旧庁舎で使用していた天草陶石を再利用している。
- ・建物内のサインにも、この陶磁器の原材料として有名な天草陶石で作成した陶磁器を使用している。
- ・正面玄関の館名サインは、地元産の下浦石で作成している。これは長崎県のグラバー邸などに使用されている石である。
- ・執務スペースはオープンフロアとなっており、フロア全体が見渡せるようキャビネットの高さも統一している。
- ・建物外周には、アウトースペースを確保。東西の外周面には朝日と西日を遮る、設備やシャフト機器等のアウターコアを設置。南面は、熱的干渉帯にもなる広めのスペース、北面には安定した採光が可能なアウトースペースとしている。
- ・建物中央に吹き抜け「インナーウェル」を設けることで、フロア内部まで自然採光を確保し、照明エネルギーを軽減している。外周4面に換気スリットを設けることで、時間帯によって風向きが変わる天草の風を最大限に取り込めるように工夫され、インナーウェルによるチムニー効果を利用して、動力に頼らない効率的な自然換気システムとなっている（環境親和型庁舎）



### 建物中央の吹き抜け〔インナーウェル〕

- ・日常利用にも配慮した防災拠点として必要十分な浸水対策と床高設定、県による浸水想定により1階の床レベルをTP 4メートルとして防潮レベルより高くしている。また海に近い敷地であることも考慮してRC造りを採用し耐候性を確保している。
- ・地盤状況に配慮し盛替えを必要としない下水道合流管の干渉を避ける地盤改良により工事をスリム化した。

## 4 建て替えによる効果

- ・本庁部署が集約されたことで、市民及び職員の利便性の向上が図られたこと。
- ・窓口関係部署を 1 階に配置することで、窓口関係に関する手続きを一塊で全て完結できるようになったこと。
- ・地元産材を多く使用することで、地元産材の良さを外部にアピールすることができたこと。
- ・工事や備品購入において、地元企業を多く採用できたこと。

## 5 課題と反省点について

### ○庁舎建設事の課題や反省点など

- ・設計書及び仕様書を充分確認し、設計内容をきちんと把握しておく。
- ・工事発注時の設計単価の確認について、設計時と発注時で資材の高騰などにより単価が変わっている可能性がある。発注時の見通しが甘かった。
- ・工期を十分な期間に設定すること、これは、工期延長、外構、工事、検査、引越等などを十分に考慮すること。
- ・工事での発生土の捨て場の確保。大量に発生する掘削度等の捨て場は、事前に確保しておくこと。
- ・サイン計画綿密に行っておく。サインの大きさやわかりやすさ、文字の明瞭さ、配置図のわかりやすさなど
- ・備品購入は開庁日から逆算して計画すること。大量発注品の納期、議決の必要性、納品日の設定など。工事完了前は、工事事業者が嫌う作業でもある。
- ・落成式等の準備は早めに行うこと。出席者の調整、場所、日時、会場レイアウト、パンフレットなど。

### ○庁舎建設完了後の課題や反省点など

- ・市民からの意見。開庁してからがかなり多かったのは、サイン、駐車場、部署の配置など。
  - ・職員からの意見。足が少ない、キャビネットが少ない、駐車場、職員の駐車場が欲しいなど
  - ・個別空調機の設置。
- 市長・副市長室、印刷室など、当初から個別空調で対応すべきであった。
- ・部署の配置の問題は、総合窓口の場所の変更、部署の追加など。当初は総合窓口が入り口付近で、来庁者の渋滞・混雑が発生したことから、解消のため中央のスペースに移動した。
  - ・執務スペースを大空間にして、キャビネットの高さ以上にものをおかないこと

で、見晴らしの良い執務スペースとしていたが、来庁者からは職員から見られている感覚があり、入りにくいという意見、逆に職員は常に周りから見られている状況であるため、職員のメンタルヘルスの問題が発生。これは見通しが良い反面、周りから見られている感覚があるため気が休まらないというものが多く、気が休まる時間や空間を作るため、キャビネットより高いパーテーションを設置した。

・ポスター掲示が見苦しいことからデジタルサイネージを活用して貼らないルールとした。また、読まないパンフレットが多かったため、情報スペースを確保して基本的には各窓口にパンフレット置かないこととした。

## 6 質疑応答

Q 旧本庁舎の課題について、建物の老朽化や地震などによる災害復旧のほかに、市民の利便性やスペースの確保、また、働く環境、業務の支障をきたすなど、どのような課題を感じられていたのか。

A 旧庁舎の課題として、基本計画本館、新刊及び別館に分かれており、本館が昭和 41 年、新刊が昭和 58 年に建設され、別館は土地建物ともに熊本県から借用している。本館は建築後 47 年が経過していたことから、老朽化による様々な問題を抱えていた。

① 耐震性の問題。平成 22 年に実施した耐震診断により耐震基準として 0.6 以上必要な  $I_s$  値は 0.18~0.57 であり、大地震が発生した場合、地震の震度及び衝撃に対して、倒壊または公開する危険性が高いことが判明した。

② 施設設備の老朽化により修繕費用が嵩む。

③ エレベーター等がなく、高齢者や障害者等に不便でバリアフリーへの対応が行き届かない。

④ 庁舎が分散していることによる弊害。利用者会議室や倉庫等の不足

⑤ 庁舎の狭隘化

⑥ 情報化社会への対応では、広域ネットワークや各種システムの中心拠点である。本庁舎において、執務室内に多くの配線が露出し、サーバー室の設備の重量が建物の構造が設備の総重量を支えられないため、機器を 1 階に配置していた。設備の保全の面で万全とは言えない状況であった。

Q 建基本計画策定までの過程について、背景と設計の充電科目等について、重点課題をどのように決めたのか。

A 基本計画策定時において、調査庁舎建設に係る議会特別委員会での協議を合計 25 回開催している。また、職員による庁舎建設プロジェクトチーム会議を 14 回、そして執務空間検討部会を 8 回、窓口検討部会を 6 回、契約、検討部会を 5 回、周辺環境整備、検討部会を 1 階実施し、基本計画の項目を検討した。

Q 市民や職員の要望や願いが反映されたか。

A 市民及び職員、アンケート回、パブリックコメントを 1 回実施しており、これらの中でいただいた意見要望等を考慮し、基本計画に反映した。

Q 工事の発注は地元幅広く発注するため、一括発注ではなく分割発注にしたということだが、費用が高額になるのではないか

A 一括発注の方が費用は安く上がるが、できるだけ多くの地元企業に仕事が回るように配慮した。工事の対応から行くと分割する事は調整等があり大変であった。

Q 反省点の中で、もっと図面や工事についてしっかりと把握しておかなければならないとあったが、何人体制でどのような管理をされたのか

A 当初から総務部管財課 3 人体制で把握していた。25 年から 30 年は新庁舎建設の推進室。係長が建築士であったが宮内氏は事務系で素人だったが、工事の進むなかでしっかりと資料を見ておく必要がある。専門家は必要であり、他の子では、電気機械建築の有資格者が配置されているところもある。

Q 見通しの良い庁舎で、大きな声を出す来庁者などの人的トラブルや火災などについて、どのように対策されているのか

A 1 階が窓口などでたまに大きな声を出す人がいるときに私たちが対応してきた。語りかけて別室で落ち着いてもらう等の対処もするが、ときには警察にお願いする場合もある。暴力的な場合には対処するための「さすまた」も設置している。火災の場合は耐火基準のある 60 メートルの防火シャッターが 1 階と 2 階に設置されており、火災を遮断できるようになっている。

Q 停電の場合は、どのように対処されるのか

A 非常用電源発電装置は軽油で三日間稼働できる発電機が設置されている。

Q 各窓口のパンフレットの置き場や倉庫、キャビネットの不足の課題の対処は。

A 引っ越しの時、できるだけいらないものは廃棄処分してもらい、持ち込まないよう整理を要請した。机の袖を A4 が入るタイプにしたり、消耗品や備品の管理については各課から各部毎で管理するようにお願いしている。



## 7 所 感

本市の令和 5 年度予算において、新庁舎建設のための積み立て基金を設置したことから、新庁舎建設にするにあたり参考になると考え、天草市の新庁舎建設について調査をした。

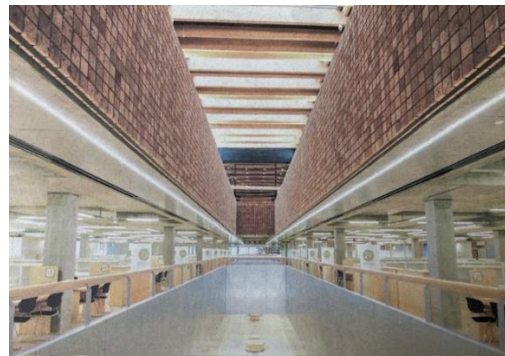
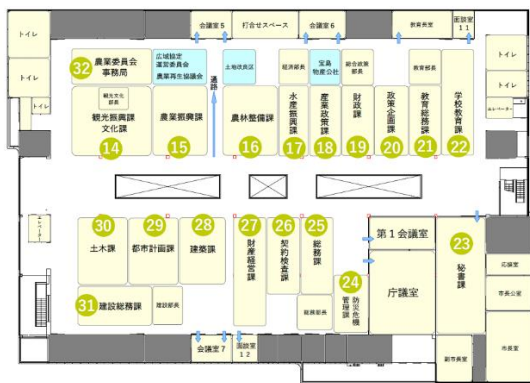
市政の心臓部であり防災の拠点ともなる新たな市役所庁舎はシンボルでもあり、市民のよりどころである。機能性や利便性、安全性のほかに美しさも吟味されなければならない。

天草市の新庁舎は、第 25 回 木材利用大型施設コンクール熊本県賞に輝いており、選考委員コメントでは、「天草産材のギャラリーを目指した新庁舎の躯体は RC 造だが木造の屋根を架け、荷重を軽減し、細い柱（RC400mm 角柱）のみで耐震壁のない、広々と清々しい室内空間が創出されている。木屋根は広く流通する 105mm 角 による重ね梁で支えられ、9m のスパンを実現し、さらに、各フロアから木屋根が眺められるように吹き抜け位置が工夫されているほか、床、壁、天井が木質化され、建具、家具、手すりなど市民の手に触れる部分にも天草産材が使用されている。特に、着工 2 年前からの準備で、天草産材の工期内安定供給が図られたことを評価している。」とも評されている。

新庁舎の建設では、市長が交代して当初の計画から時間を要したものの、市民の意見としてあった建設コストの削減を実現しているほか、市政が地元経済を回すための努力を惜しまなかったことも賞賛に値する。

また、新庁舎を計画するには、コストの抑制から地元の産材や事業者の活用、デザイン、機能性や利便性の充実、執行部の備品・消耗品の引越し、職員の働く場所、環境負荷対策、ランニングコスト低減などさまざまな課題をクリアする必要があることがわかった。本調査を参考に想定される課題を把握しながら、来るべき本市の新庁舎建設に向け時間をかけしっかりと備えていくべきだと考える。





天草市 HP 庁舎案内及びいただいた資料より